

第8章 ワールド

この章では『Myth & Renaissance』の舞台となるオーランを解説します。

8.1 舞台

地理

舞台となる場所はオーラン教国と呼ばれる地域です。教国の東よりに白金山脈と呼ばれる5000m級の山脈があります。山脈のふもと西側には、満月湖と呼ばれる大きな丸い湖があり、大量の水をたたえています。満月湖からは空河（くうが）と呼ばれる、大きな河が流れ出しており、『聖都』を始めとする、主要な都市は河沿いにたくさん存在します。空河は空と河の区別がつかないくらい広大で、ゆったりと流れている河であることから付けられた名前です。

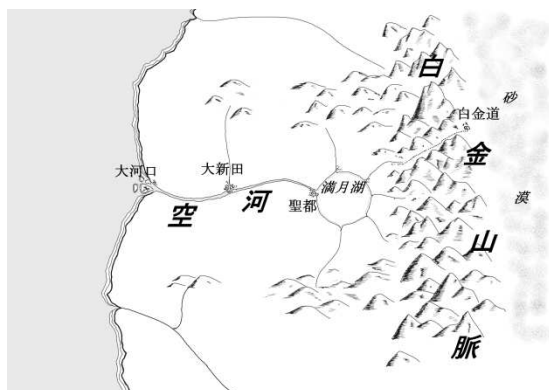
気候

オーランの気候は、地域によって異なります。白金山脈の西部では、四季があり、比較的温暖です。真夏は蒸し暑く、気温は30度を超えます。一方で真冬は氷点下数度程度にまで下がり、雪が積もることもあります。山間部ではもっと気温が低くなり、白金山脈では万年雪を見かけることもあります。白金山脈の東部は、乾燥しており砂漠が広がっています。また、白金山脈から吹き下ろす「白金おろし」は特に乾いた熱風で、周囲の農作物に被害を与えます。この地域では、米作は不可能であるため、白金山脈の雪解け水を利用して、小麦の栽培を行っています。

主要な都市

『聖都』

本来の名前を忘れられ、単に『聖都』と呼ばれる



オーラン教国で最大の都市です。人口は20万人程度です。満月湖のほとりに位置し、湖に面した丘の上に『大聖堂』があります。大聖堂から放射状に水路が張り巡らされており、人々は水路を活用して生活をしています。

大新田（だいしんでん）

満月湖と海のちょうど間ぐらにある、大穀倉地帯です。空河の豊富な水を生かして、オーランの米の40%を生産しています。その発祥は名前の通り、大昔の食糧増産計画による新しい水田の開墾だといわれています。今では、米の生産だけでなく水路を生かし、作物の集積所としての役割も果たしています。人口は5万人ほどです。街には水路がいたるところに張り巡らされていて、船を使って移動します。聖都からの距離は、徒歩で10日です。

白金道（しろがねみち）

白金山脈の東側のふもとに位置し山脈から熱風『白金おろし』吹き降ろす、大変熱い土地です。乾燥しているため小麦の栽培を行っています。もとは、白金山脈の地下に眠る貴金属や鉱物を掘り出すために作られた街です。鉱脈はまだ枯れておらず、未だに大量の貴金属や鉱物が出てきます。坑道は縦横に張り巡らされ、使われなくなった坑道には表に出られないような人間が住んでいるとのうわさも聞きます。人口は5万人程度です。小麦から作られる、うどんやパスタなど料理が有名です。聖都からの距離は徒歩で15日です。

大河口（だいかこう）

空河の河口にある街です。物流の要所です。人口は10万人。夢を持った若者がここから大海原に旅立ちます。特に、新しい島を探す冒険に乗りだして帰ってこない若者は後を絶ちません。大新田からの距離は徒歩で、10日です。

政治体制

オーラン教国では神聖統治が行われています。聖都にある『大聖堂』にて毎朝信託が下され、その信託により政を取り仕切ります。信託は光の勢力の意向を取りまとめたもので、常に人にとって役に立つものです。

公的機関としては**神殿**と**教会**があります。神殿は国政を中心に行う機関です。神殿の主な役割は、政務、

祭事、異端審問などです。神殿には神殿付きの戦士がいて、聖戦士と呼ばれ、部隊を作っています。神殿に務めている**司祭**は奇跡を使うことができます。それが、神殿務めの条件です。

一方、教会は事務、実務を中心に行っており、民衆にはなじみのある場所です。さまざまな公共サービスを展開しており、さまざまな物資の物流管理、学校の運営、自警団の結成などを行っています。教会に務めている**神官**はかならずしも奇跡がつかえるわけではありません。

神殿の方が教会よりも上位の組織になります。数は教会の方がずっと多く、その地域の教会を全て管理するのが神殿です。そして、神殿は全て聖都の大聖堂に管理されている中央集権型です。大聖堂を治める**教皇**と呼ばれる**司祭**です。現在はアーリア・フェルナンデス教皇が第 880 代目の教皇として大聖堂を治めています。教皇は奇跡を一番使える神殿長が終身就任することになっています。

文化

世界の最先端は初期の蒸気機関程度までできていますが（もちろん異端として扱われます）、一般的にはルネサンス初期ぐらいでしょう。文化的にはそれなりに発達しています。子供はちゃんと成人するまでに 2 年ほど修学し、読み書き、算数、その他常識を学びます。さらに高等な教育機関もあります。さらに、エンターテインメントも発達しており、舞台劇やサーカスや楽曲などの大掛かりな公演や酒場の弾き語りまでさまざまな娯楽が存在します。質は悪いですが印刷技術もあり、有名な神話や物語は本として手に入れることが可能です。暦や曜日による休日は現実世界と同じです。銃器も存在しますが、新しい神の加護を受けていないと所持できず、所持していると異端として連行されてしまいます。新しい神々の加護を受けているキャラクターならば、これよりも進んだ技術を持っていることにして、シナリオに登場させてもかまいません。

信仰

暁とともに目覚め、沈みゆくメガスと昇るフォトスに朝の祈りをささげます。身支度を整えたあと、家を出発して自分の信仰する祭神の神殿で、その日一日の豊穰と平穏を祈ります。神殿がない場合は、家で祈ることが一般的です。祈りのあと仕事に取りかかります。黄昏時まで仕事をしたあと、昇るメガスと沈むフォトスに祈り、就寝前は信仰する祭神に一日の豊穰を感謝します。人によってはメガスとフォトスに対する祈りを省略することもあります。その場合でも、信仰する祭神に対する祈りは必ず行います。

敬虔なオーランの世界の人は、自分が信仰する神の

自慢をすることもあります。どれほど自分が神から恩恵を受けているかのエピソードを自慢しあうのです。

オーランにおける罪

オーランでは正しい信仰を持つことが暗黙のうちに義務づけられています。正しい信仰とは、光もしくは薄明かりの祭神の教義に従うことです。しかし、人間は非力ですから、日常生活において、闇の祭神の力に捕らわれることもあるかもしれません。そうであった場合は、そこから脱却することが求められます。そのまま闇の神の声に耳を傾け続けることは異端とされます。闇の祭神に捕らわれたことで起こった出来事が罪の対象となるのではなく、そもそも捕らわれたことが罪になります。

人々は小さな「罪」を繰り返し、「罪」を反省することで滅ぼすのです。「罪」は光の祭神や薄明かりの祭神の教えによってのみ滅ぼすことができます。「罪」無き状態にある限り、神は奇跡の力を人間に与えられています。これらの、無意識の「罪」は「汚れ」とも呼ばれています。

一方で、自らの自覚、または無自覚でありながら深い信念によって、闇の神々の教えに従うものは、「大罪」と呼ばれています。

食生活

オーランでは米食がメインです。炊いた米以外にも、餅などの形で食べられています。空河流域や大河口湾岸部で捕れる新鮮な魚、周辺の農家から栽培している新鮮な野菜、果物を利用した料理が一般的です。一方で、家畜も飼育していますが、食卓に肉が上がることはほとんどありません。、聖都では満月湖で捕れる鰻を活用した鰻料理が名物になっています。

経済

貨幣単位はフォトン(Photon、Ph と略す)です。いずれの硬貨にも『太陽の神フォトス』を表す太陽の模様がかたどられていますが、材質によって価値が変わります。黄銅貨が 1 フォトン、青銅貨が 10 フォトン、白銅貨が 100 フォトン、銀貨が 1,000 フォトン、金貨が 10,000 フォトンです。形状は直径 1.8cm～2.5cm 程度（高額な貨幣ほど大きい）、厚さ 2 mm 程度の円盤になっていて、1 フォトン貨のみ中心に丸い穴が開いています。

1 ヶ月の生活費は大体次のようになっています。

最低限の生活・・・・・・・・・5 万 Ph/人

一般的な生活・・・・・・・・・10 万 Ph/人

裕福な生活・・・・・・20万～Ph/人

収入は大体次のようになっています。

最低ランクの収入・・・・・・15～30万 Ph/月

平均的な収入・・・・・・30～50万 Ph/月

やや高水準の収入・・・・・・50～100万 Ph/月

高水準の収入・・・・・・100万～Ph/月

(キャラクターがセッション中にすぐに使えるお金は、一か月の収入と同じ金額です。キャラクター作成時のキャラクターの所持金は10万 Phになります。)

暦

7曜日制をとっています。曜日は、「月」「火」「水」「木」「空」「土」「日」の7つです。ただし、休日になる曜日は現実世界と違い、「月」「日」です。つまり、1週間は「月」に始まり、「日」に終わることになります。

1か月は30日で、1年は12ヶ月。つまり、1年は360日になります。月は1月、2月のように数字で呼ばれますが、別の名前もついています。暦上の季節も決まっており、次のようになっています。

- ・ 春 3/20～6/20
- ・ 夏 6/20～9/20
- ・ 秋 9/20～12/20
- ・ 冬 12/20～3/20

日曜日、月曜日以外に特別な祝日が制定されています。

・ 星夜の日

無塵戦争に決着がついた日とされています。

・ 初春の日 毎年3月20日

春の女神が目覚める日とされています。

・ 初夏の日 毎年6月20日

夏の女神が目覚める日とされています。

・ 初秋の日 毎年9月20日

秋の女神が目覚める日とされています。

・ 初冬の日 毎年12月20日

冬の女神が目覚める日とされています。

・ 建国記念日

聖都が完成したとされている日です。お祭りが行われています。

・ 新年の日 毎年1月1日

1年の始まりの日。この日に限りセレナとフィルナがそろって昇ってきます。

・ 司祭の日

1年に1度の司祭が任命される日です。

・ 収穫の日

秋の収穫を祝う日です。収穫祭が行われます。

・ 教皇誕生の日

初代教皇(ダリウス・メガゼイア)が生まれたとされている日です。

8. 2 主要人物、団体

オーランの主要人物です。

アーリア・フェルナンデス教皇

第880代目の教皇としてオーランを治めている人物です。新年の日に行われる新年祭の時にしか、一般人の前に姿を現しません。初老の男性であり、メガスの信徒であること以外はほとんどが謎に包まれています。

教皇はオーランの神殿勢力の頂点に立つ人物です。教皇の下に、各祭神を祭る神殿のトップである枢機卿が続きます。

ニコラウス枢機卿

メガスの神殿の枢機卿です。オーランで最も信者の多いメガス神殿の実権を握っている人物です。ニコラウスもまた、初老の男性であり、教皇とニコラウスは同一人物ではないかとささやかれています。

サイコー司祭

フーの神殿に使える司祭です。炎髪と筋肉質な肉体をもち、どこからみてもフーの司祭といった風体をしています。

フーの司祭であるため敵に回すとしつこく追いかけてまわされますが、味方となるとこれほど心強いものはいません。

薬草師メルル

聖都で有名な薬草師です。若いながらも、知識も豊富で、腕も非常によいのですが、多少金に細かいところと、人使いが荒いところが玉に瑕といわれています。

珍しい薬草を持ていくと、高値で買い取ってくれます。

技師エルネスト

アーティスの神殿に付きの技師です。技師によくいるタイプの偏屈さはなく、人の良い老人で、水車を直したり、時計を直したりといった仕事を請け負っています。

新聞記者アーベル

毎朝発行される新聞『聖都タイムズ』の記事を集めている新聞記者です。聖都のことについてかなり詳しいようです。

“太陽の子”ジョナサン

オーランで有数の豪商です。多種多様なものと取引しており、彼に頼めば手に入らないものはないといわれています。もちろん、入手が難しいものや、違法なものほど金額は高くなります。

太陽の子というのは、儲かっている様を表してつけられたふたつ名です。

ねずみ男

黒いローブに身を包み決して顔を見せないという謎に包まれた男です。聖都の邪教徒による事件の現場付近で常に目撃されているため、事件との関連性のある邪教徒だといわれています。どんなに捕まえようと

しても、いつも逃げられてしまうため、彼が本当に邪教徒なのかは分かりません。

ノイエン

「エリート科学者集団N」のリーダーです。知的、冷静、残忍な性格の人物で、科学の世界を実現するために、彼曰く「武力による広報活動」を行っています。彼のラボや普段の生活などはすべて謎に包まれています。

エリート科学者集団N

オーランの主要都市にラボを持つ科学者集団です。他の科学者集団と比較して、かなり過激な団体で、派手な武力行使を好みます。テロを行う前に予告状を出すなど手の込んだことをすることもあります。

科学研究の方の実績もかなりのもので、その名に恥じないオーランで最先端の技術を持っています。そのため、裏で取引をしている有力者がいたり、資産家がいったりするといわれています。